

福總新聞

（毎月）廿五日（二）回
定價 一部十錢 寄月廿錢
廣告料 雜報欄五十錢
發行所 福總新聞社
市島 三

……はリスク
目丁五町平
〜局藥邊野山

祝 杉山炭礦發展

信念に生ききた

杉山今朝吉氏

今や杉山八尺炭礦の名は、誰として放つてゐるではな隆昌なる事が認識を容易に、餘りにも全国的に周知さるゝに至つた。
是れは起因する處杉山氏の隆昌に依つて以つて、如何に杉山炭礦の旺盛にして、堅忍不拔にして信直をモットーとしてゐる精神の表示が茲にあると共に、半面伴ふ處に氏の益友たる優良炭が氏を扶けつゝあることに因つて今日の盛大を製造つてゐる。

軍人としての杉山氏

氏は過般迄大内郷村の軍づつゝあることも、絶讃に價人分會長として名を馳せしむるものがある、それは軍人精神教育に身を委ね、内郷村軍人青年團の現在に、つゝあつた結果として大内於ける優秀なる成績が、克く郷在郷軍人青年團が他に比之れを物語つてゐる。して最も優越なる成績を上げてゐる。

個人としての杉山氏

寧ろ炭質の優が第一とするも、信條ある取引によること、が信條の信なるものと云はざるを得まい、然る時白水炭礦の關門を立派に飾つてゐる杉山炭礦こそは白水炭礦地帯の旺盛を物語るに足る繁榮を示してゐるだけ、なからうか、優良炭そのものとして知られてゐる「炭」も、黒ダイヤは飽くまで自然を超越しての驚異的光彩を陸得ない氏の人格と温情味との嚴父たる如く、絕對他の追

敬神措かざる氏の全貌が堅甫めて事績の達成が頻りに認められる筈である。望まれる所以であらう。例せば彼の繁忙限りなき業務の傍ら夜行車に搭して偶々美觀限りなき巍然として、参詣することを欠かない炭礦の將來に輝く旺盛さこそ、斯の如き精神の人であつてゐる。

杉山炭礦 偉容の一部



八百年の昔を偲ぶ

白水阿彌陀堂の由來

家根葺換竣工森嚴一層加はる

今より約八百年の昔二條聖三十八年工を起して修繕天皇の御宇永曆元年三月興を行ひ同三十七年五月竣工州岩城大守岩城次郎太夫則したるものであるが、堂宇の道の後室徳尼公の創設に係木羽家根は腐蝕甚しく疾くといふ白水阿彌陀堂は陸に之れが葺換の必要に迫らるるといふ白水阿彌陀堂に模して比佐代議士の熱中平泉中尊寺の金色堂に模して造營せられたりといふ最も精巧を極めたる建遺於ても漸く之を認め愈々國物であつて堂の廣さ七間四費七千三十九圓内一千圓地、面實形造りにして中に安置元寄附を以つて家根全部及する佛像中本尊阿彌陀如來前面廊下の修築を行ふこと、並に觀音勢至の三體は明治、なり本年二月工を起し同六月竣工した。

寫眞説明

記堂宇は明治三十五年七月（國寶白水阿彌陀堂）の圖書特別保護建造物となり政府（藝術展覽會出品（慈光））（荻生天泉畫伯の筆）

祭 神 山 礦 炭 山 杉

式 炭 着 坑 新 礦 炭 山 杉

水 白 村 郷 内 郡 城 石 縣 島 福

祝

